



新学長ご挨拶

北野 正剛 学長

10月から学長に就任しました北野正剛です。男女共同参画推進本部長として、本学の重要課題の一つである男女共同参画社会の実現に向け携わって参ります。

大分大学は、他国立大学等と比べ具体的取組みは遅れ、平成22年度文部科学省科学技術振興調整費(女性研究者支援モデル育成)「地域社会で育む『輝く女性研究者』支援」に申請・採択されたことを機に、同年7月大分大学女性研究者サポート室と大分大学男女共同参画推進本部が設置されました。そして、同年10月大分大学男女共同参画推進宣言がなされ、男女共同参画行動計画が策定されました。これらに基づき、女性研究者サポート室FABと男女共同参画推進本部との連携により、教育・研究・就業の場における男女共同参画

の推進、家庭生活と教育・研究・就業との両立支援、大学運営における意志決定への男女共同参画の推進、地域社会との連携を通じた男女共同参画の推進、啓発活動と教育研究の推進等に取り組んでいます。現在、内閣府による第3次男女共同参画基本計画に「科学技術・学術分野における男女共同参画」が重点分野と位置づけられ、文部科学省による第4期科学技術基本計画に科学技術を担う人材の育成として、女性研究者の活躍を促進することがあげられました。

大分大学では、地域社会における「知の拠点」としての役割を果たしつつ、有為な人材の育成と教育研究の発展を目指し、国際的競争力をもった研究者を育てるためにも、男女共同参画と女性研究者支援のさらなる充実を大学一丸となって推進し、女性・男性にかかわらず活躍できるような環境づくりと意識改革につとめていきます。

11月から『研究サポーター事業』を始めます

研究サポーター事業について

この事業は、育児(妊娠中を含む)・介護に携わる研究者に対し、研究補助業務に従事する研究サポーターを配置することで、研究者のワーク・ライフ・バランスを支援し、研究活動の活性化を促進することを目的とします。なお、女性研究者に限らず、男性研究者も対象とします。

研究サポーター事業概要

研究補助を希望するもの(利用者)

(利用資格)

- ・妊娠中(産休中を除く)
- ・小学校6年生までの児童を養育している者
- ・家族に要介護者または要看護者がいる者

②研究サポーター利用申請

女性研究者サポート室

人材データバンク

③利用が決定した場合

研究サポーター(サポート室付)を利用者のもとへ派遣

①登録

研究サポーターの取扱いについて

【研究サポーターの業務】

研究活動に必要な実験補助、研究データ分析、統計処理、資料作成、文献調査等の研究補助

【支援期間】

当該年度6ヵ月以内、月72時間以内、週20時間以内

【勤務時間】

利用者の勤務中に、利用者の指示のもと業務を行う。

研究サポーターになることを希望するもの

- ・本学の在学生
- ・卒業生
- ・外部の希望者

詳細は女性研究者サポート室のホームページでお知らせします。

URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp/>

特集 女性研究者を増やすには

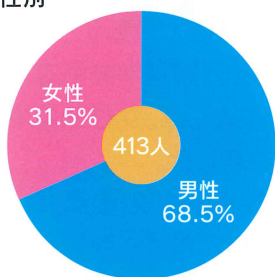
～研究者の意識調査より～

女性研究者サポート室“FAB”では、平成23年2月に大分大学に在籍する教員および職員(研究に直接携わる技術系職員)823人と大学院生676人の計1499人を対象に、「国立大学法人大分大学における『女性研究者支援モデル育成』事業に係る研究者の意識調査」と題した女性研究者支援をメインテーマに、男女共同参画や両立支援に関する意識調査を行いました。結果として、教職員の38.0%(313人)、大学院生の14.8%(100人)から回答をいただきました(調査期間が大学院生の卒業式、授業休講期間と重なったため大学院生からの回収率が非常に低い結果となりました)。

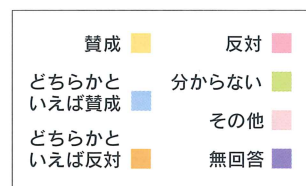
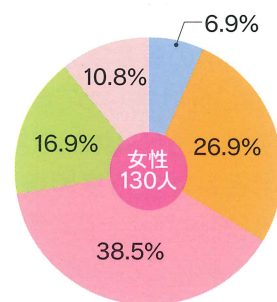
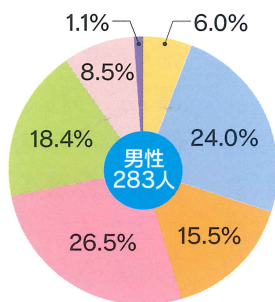
今回は、『女性研究者を増やすには』どうすればよいと思うか、大分大学の研究者の意見を紹介します。

■回答したのはどのような人たち?

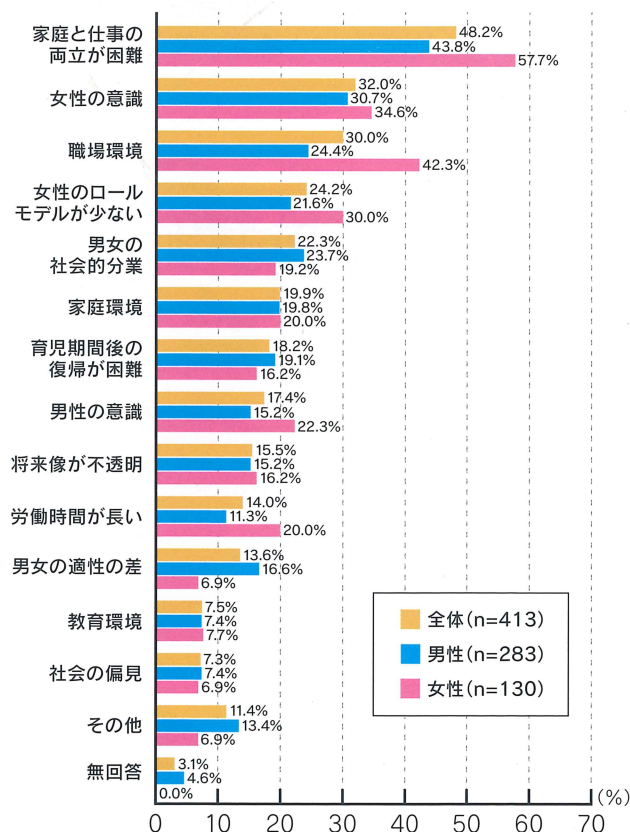
◇性別



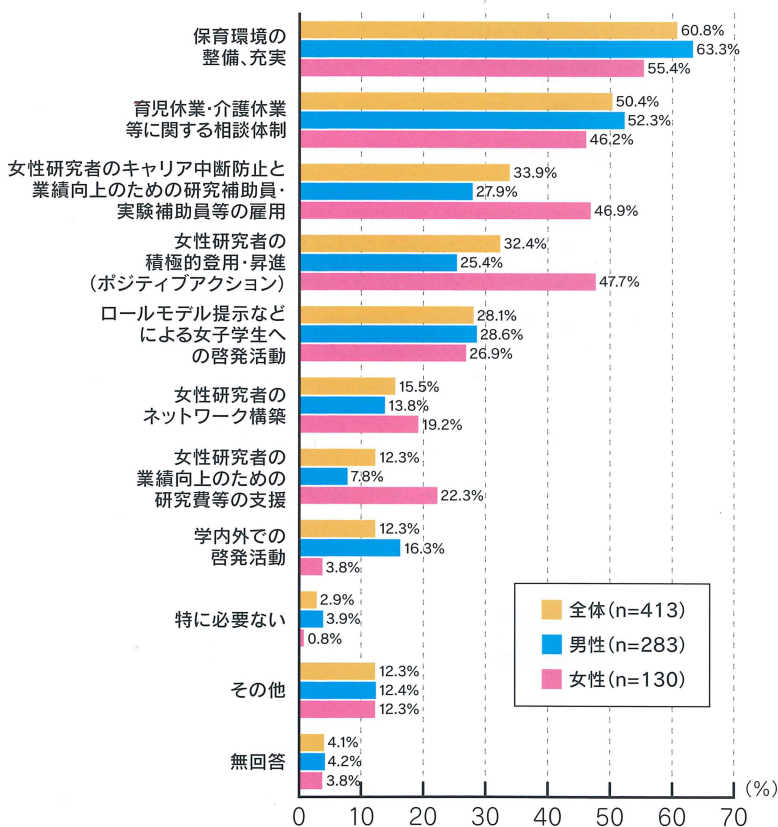
■夫は外で働き妻は家庭を守るべきだと思いますか?



■大分大学においてどうして女性研究者が少ないと思いますか?(複数回答)



■女性研究者を増やすためには何が必要だと思いますか?(複数回答)



大分大学において女性研究者の比率が少ない理由としては、「家庭と仕事の両立が困難」、「女性の意識」、「職場環境」などが男女とも上位にあります。女性では「家庭の仕事の両立が困難」と「職場環境」をあげる割合が男性よりもかなり高くなっています。

女性研究者を増やすために必要なこととしては、男女とも「保育環境の整備、充実」や「育児休業・介護休業等に関する相談体制」が多くなっていますが、女性では「女性研究者のキャリア中断防止と業績向上のための研究補助員・実験補助員等の雇用」や「女性研究者の積極的登用・昇進(ポジティブアクション)」をあげる人も多くなっています。

自由な回答を求めた『女性が研究を続けていく上での問題点やサポートを必要とする点』、『女性研究者サポート室の活動について』および『大分大学の男女共同参画の推進について』の設問ではさまざまな意見が寄せられました。詳細は、冊子『平成22年度研究者の意識調査報告書』をご覧ください。

(サポート室ホームページ【URL: <http://www.fab.oita-u.ac.jp>】のメニュー『発行物』からもPDFをダウンロードできます)

情報交換 FAB交流会 “学内の女性研究者のネットワーク構築のために”

第2回目(教員&研究者の卵)

全学研究推進機構の一・二・三教授、教室員1名、大学院3名、学部学生5名および松浦恵子女性研究者サポート室長の計11名の女性研究者が参加し、昼食をとりながら情報交換を行いました(9月16日)。

特に、学会発表のスキルアップの重要性や、研究者として大学に残ること、博士課程に進むこと、研究と育児等との両立をすることなどについて話しました。



第3回目(両キャンパスの教職員&大学院生)

女性研究者奨励賞授賞式に出席した女性研究者と松浦室長による“FAB交流会”を行いました(9月20日)。

授賞式での学長を前にしての緊張した面持ちとは異なり、同じ研究者同士リラックスした様子で、他の研究者へ質問するなど情報交換しました。



第4回目(医学科&看護学科)

9月20日の奨励賞授賞式に参加できなかった医学部所属の女性研究者への松浦室長からの奨励賞と学会参加通知書の授与式に合わせ、医学部では初めての“FAB交流会”を6名で行いました(9月27日)。交流会では、普段なかなか接する機会がない医学科と看護学科所属の研究者が情報交換を行い、それぞれの研究内容やワークライフバランスについて、また研究と臨床や教育との両立や将来のキャリアについて意見交換を行いました。



次世代育成のための活動 「女性研究者と語ろう」を開催しました

8月10日のオープンキャンパス当日、旦野原キャンパスで「女性研究者と語ろう」および「女性教授の研究室を覗こう」を開催しました。また狭間キャンパスでは、医学科と看護学科で女性研究者サポート室紹介コーナーを設けました。「女性研究者と語ろう」では、サポート室活動紹介動画の視聴後、教育福祉科学部、経済学部、工学部の女性研究者と語り合いました。

女性研究者は、自身が研究者になったきっかけや、研究の楽しさ、ワークライフバランス等について語り、女子高校生からは進路目標に対してどう歩んでいくべきかなどといった具体的な質問が寄せられました。

また、「女性教授の研究室を覗こう」では全学研究推進機構の一・二・三恵美教授の研究室を多くの女子高校生が訪れました。研究室所属の学生や大学院生から研究内容の説明や研究のおもしろさについて話を聞き、顕微鏡で細胞を観察するなどの体験をしました。

狭間キャンパスの医学科紹介コーナーでは、松浦室長が多くの女子高校生を前に、医学研究の大切さや大分大学における女性研究者支援体制について説明しました。また看護学科でも丸山サポート室コーディネーターが看護学研究の大切さなどについて説明を行いました。



研究活動支援

女性研究者奨励賞授賞式を行いました

9月20日、学長室において第2回女性研究者奨励賞授賞式が行われ、学長より奨励賞受賞者に表彰状が授与されました。併せて平成23年度春季および秋季の学会派遣支援の採択者には採択決定の通知書が渡されました。

学長は出席者12名を前に、「大学は意欲ある女性研究者を応援するために、奨励賞と学会派遣の支援を行なっています。積極的にこのような賞に応募していただくことは喜ばしいことです。今後これを機にますます活躍してください」とあいさつされました。授賞式の後、出席者と学長との懇談会が行われました。



■今年度の奨励賞受賞者および学会派遣支援採択者数は次のとおりです。

- 第2回女性研究者奨励賞 6名(教員4名、大学院生2名)
- 平成23年度春季学会派遣 国際学会 3名、国内学会 1名
- 平成23年度秋季学会派遣 国際学会 3名、国内学会 8名



意識啓発

大分大学医学部セミナー「女性医療人のキャリア継続のために」を開催しました



7月15日(金)、医学部臨床中講義室にて「女性医療人のキャリア継続のために」を開催しました。九州大学大学院医学研究院 保健学部 榎木 晶子教授を講師としてお招きし、同大学で取り組まれている、「九州大学病院さらめきプロジェクト」について、大分大学医学部の教職員及び大学院生・学生を含めた約40名を対象にご講演いただきました。

九州大学では、平成19年度に女性医療人のキャリア継続、復職を目的とした文部科学省の支援事業に採択され、3年間の取り組みを経て、事業終了後は九州大学病院の自己予算で事業の継続を行っており、それらの具体的な取り組みや現状についてお話していただきました。

経済学部1年生を対象に男女共同参画教育を行いました

経済学部では、新入生319人を対象に、基礎演習共通プログラムを実施しています。これは、経済学部に入学生として、当然知っておくべき基礎知識を学習させるもので、今回は「大学生の今から「男女共同参画」を自覚しよう」というテーマで、7月20日(水)に実施され、教育福祉科学部の山岸治男教授が講師を務めました。



大分大学の輝く女性研究者(3)

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名(教員90名、大学院生173名)(平成23年5月1日現在)です。でも実際の研究者がどのような研究生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第3回目は、医学部法医学講座の岸田哲子 教授と医学部看護学科の井手知恵子 教授を紹介します。



医学部
法医学講座
教授 岸田 哲子さん

【略歴】

神戸市生まれ。大阪医科大学卒業後、3箇月の大阪府監察医事務所勤務を経て、昭和55年に大分医科大学(現大分大学医学部)法医学講座着任。現在に至る。

仕事の内容は?

大学教員の仕事は教育、実務(私の場合は解剖や鑑定)、研究の三つですが、年々実務の比重が増え、研究時間を脅かすようになったのは困ったものです。教室開設以来、血液型の研究を続け、現在のテーマはDNA多型の実務的応用(親子鑑定等)です。

進路決定のきっかけは?

医師になりたいという抽象的な希望が、岩波新書の「法医学の話」(古畑種基著、絶版)に出会ったことで、ぜひ医学部で法医学を学びたいという具体的な希望に変わりました。学生時代は病理学か法医学か迷ったこともありましたが、最終的に遠い九州の地で新しい教室を作るという夢に惹かれ、こちらに赴任しました。

研究の魅力は?

法医学の研究は「何をどう検出するか?」に尽きます。自分で工夫した方法が実際の鑑定—たとえば混合試料からのDNA型判定—に適用できたとき、法医学をやっているよかったですと感じます。

後輩へのアドバイスは?

研究は難しい特別なことではありません。ふとした疑問や気になる事象を明らかにしてみたい、そんな好奇心から始まります。初めは失敗ばかりだった実験がおもしろくて時間を忘れるようになったら、あなたはもう立派な研究者です。独り立ちして前に進んでいきましょう。

ワークライフバランスについて

もともと朝型人間なので、できるだけ仕事の重心を一日の前半に持ってくるよう心がけています。司法解剖のため休日出勤も稀ではないので、休めるときに休み、生活にメリハリをつけるのが大切と思っています。



医学部
看護学科
教授 井手知恵子さん

【略歴】

千葉大学看護学部卒業後、同大学院修士課程を修了し、東京・北海道で保健師として勤務。短大専攻科(保健師教育)の教員、大学院博士課程を経て、平成9年から大分医科大学(現大分大学)に赴任、現在に至る。

仕事の内容は?

学部・修士課程で、地域看護学関連の6科目の他、家族看護学、看護コンサルテーション論、看護研究等を担当。地域看護活動のうち特に保健所・市町村保健師の活動方法や活動体制、保健師の現任教育、地域看護管理、地域看護学・家族看護学の教育方法に関する研究などを手がけています。

進路決定のきっかけは?

修士課程修了後、保健師として楽しくやりがいをもって看護活動をしていました。そこで実習指導を担当した際、自分たちの実践から学生が学び感動する様子を見て、同じように多くの後輩たちに伝えられると期待して、看護教育にたずさわりました。しかし、実習指導で実践そのものを伝えている立場と異なり、基礎教育では理論を精選し、かつ実践と結びつけ発展させる能力が必要で、実証に基づく説明性を示すために必然的に研究能力を高める必要に迫られました。

研究の魅力は?

看護の実践で経験的に曖昧になされていることを理論的に整理して実証して、それによって看護の質の向上につながる手ごたえが魅力だと感じています。看護の奥深さを追究するやりがいと、人々に役立つよこびがあると思います。

後輩へのアドバイスは?

看護学の研究者を目指すには、まず看護そのものにきちんと向き合うことが大事です。実践をとおして疑問や証明したいことを考え、実践家としての力もつけて、社会に貢献する看護学の発展を考えてほしいと思います。

ワークライフバランスについて

仕事と家庭・自分の趣味・時間の使い方やメリハリ、家族の協力、周囲のサポート、「良い加減」を考え「ころあい」をみる…いろいろありますが、どれも自分にとって大事だということを忘れずに、その時々状況に応じてバランスをとってほしいと思います。

■編集後記

前号は青々としたゴーヤを眺めながらの編集作業でしたが、すでに枯れ葉が舞い落ちる季節となりました。さて、平成23年11月からサポート室の新たな支援活動『研究サポーター事業』がスタートします。この事業が研究活動の活性化に役立つことを期待します。



大分大学 女性研究者サポート室

News Letter

編集・発行元 / 発行日 2011年10月

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 "FAB" Female academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL(097)554-8573 FAX(097)554-6039
E-mail: fsupport@oita-u.ac.jp http://www.fab.oita-u.ac.jp/